入　　賞

その水、本当に必要ですか？

不二聖心女子学院中学校

一年　池上　さん

みなさんは蛇口をひねると、いつでもきれいな水が出てくることを当たり前だと思っていませんか？

しかし、それは決して当たり前のことではないのです。約二年前、私の住んでいる町は台風の影響で二日にわたり断水してしまいました。断水していることを知らず、夜いつものように歯みがきをしようと蛇口をひねると、いつもなら出てくるはずの水が出てきませんでした。今まで蛇口をひねれば水が出てくることを当たり前だと思っていた私は愕然としました。断水による影響はこれだけではありませんでした。お手洗いに行き、水を流そうとしても水が出てこないということに気がつき、あわてて浴槽にためてあった水をバケツに汲んで流しました。浴槽に水がためてあったからよかったものの、もしなかったらどうしたらよかったのだろうと思うのと同時に、一回流すのにバケツ一杯分の水を使うという事実に驚き、普段何のためらいもなく水を流していた自分に罪悪感を抱きました。その他にも、水がないので食事の支度をすることができず、お弁当を買って食べました。また、お風呂に入れませんでした。困っていると、近くの旅館が断水している地域に無料で温泉を開放してくれ、そのおかげでお風呂に入ることができました。そんな中で私が特に困ったことは、飲み水が確保できないということでした。のどが渇いても水を飲むことがで

きず、辛い時間を過ごしました。普段は、のどが渇いたら何も考えず、当たり前に水を飲んでいました。そこで初めて私は、蛇口をひねると水が出ることの貴重さやありがたさを身にしみて感じたのです。水が出ないとこんなにも生活が不自由になってしまうということを断水の経験を通して学びました。

水のありがたさを改めて感じていたその頃、テレビでこんな広告が流れてきました。その広告は、アフリカ西部に住んでいる女の子の妹が汚染された水を飲んだことによって命を落としてしまった。しかし、残された家族は命の危険があると知りながらも生きるためにその水を飲み続けるしかないという内容でした。（ＡＣジャパンの広告）その広告を見て、私はたった一日の断水で大変な思いをしていた気になっていましたが、世界には比べものにならないくらいに水に不自由し、苦しんでいる人々がいるということを知りました。それをきっかけに世界の人々と水について調べてみると、汚染された水によって命を落としてしまう乳幼児は一日で八百人以上、年間では三十万人もの数にのぼると分かりました。（日本ユニセフ協会の記事より）生きていくために必要な水であるはずが、その水によって幼い命がうばわれてしまうという現実に私は心が痛みました。そして日本人の中には直接現地に行き、きれいな水を利用できるようにボランティア活動をしている人がいるということも知りました。そのような行いはとても立派ですばらしいと感じます。

日本に住んでいると水が豊富にあると思ってしまいがちですが、水は限りある資源です。未来にきれいな水が残せるように、私たちができることを日々考えながら生活していくことが大切です。そして、その努力や工夫、私たちの持つ技術を、水で困っている人々に届けることも私たちにできる使命だと感じました。みなさんも蛇口をひねる前に、頭をひねって水の必要性と重要性について、そして、自分が水に対して大きな責任を背負っているということをもう一度考えてみてほしいと思います。